

日本のスポーツを大まかに表現すると、戦前は柔剣道の格技であった。戦後、野球やサッカーなどの球技になり、今は「快感系」スポーツが流行しているのだと思う。では、「快感系」とはなんぞや？

それは、スノーボードやウィンドサーフィンに代表される、遠心力を体感するスポーツ。「横乗り系」という言い方もする。要は、重力を感じながら動く「遊び」から始まったスポーツなのかも。

この「快感系」がこれまでのスポーツと違う点は、「練習」という考え方が薄いことだと思う。野球なら、キャッチボールやバッティング練習というものがある。その練習をしてから、試合に出ることになる。しかし、「快感系」は、遊んでいる状態が、もうすでに練習になっているのだ。だから「練習している」という感覚が薄い。日ごろの練習の成果のために……と、改めて試合をするということも、あまり考えていないようだ。

そういう「快感系」に興じる彼らを見て、いらだちを隠せない、年配の方もいるようだ。理由は簡単。そのスポーツが、ストイックさ、根性とか努力といったものから、かけ離れていると感ずるからだろう。

ところが、その快感系スポーツから、オリンピック出場に励んで

いる選手が大勢出始めた。彼らは仲間がワイワイ遊んでいる時に、その横で苦しい練習をしているのだ。その練習は、ほんのちよつと気を抜けば、すぐに遊びになつてしまふ。さらに、本来勝ち負けがなかった遊びに、「決着」をつけなければならぬ。例えるならば、好きな登山を、あえて「練習して競う」というようなものだ。これは、苦しい。

ひよつとすると、彼らこそ、ストイックの固まりなのかも。こうした若者たちは、今までとは違う形の我慢を経験しているのではないかな。

【朝日新聞・マリオン】

2007年2月7日掲載